

膠アレ1：膠原病総論、アレルギー、自己抗体

日時：7月9日(木) 3時限

担当者：荒木 靖人(リウマチ膠原病科)

内容：

ミニ試験および解説を中心にしたこの講義に出席することで

1. 膠原病および膠原病類縁疾患の概念、病態を説明できる "E-4-3)-(1)"
2. 膠原病および膠原病類縁疾患の分類を説明し、それに含まれる疾患を挙げることができる "E-4-3)-(1)"
3. 膠原病及び膠原病類縁疾患において見られる特徴的臨床所見を挙げることができる
4. Coombs&Gell のアレルギーの4型を挙げて、それぞれに関して説明できる
5. アナフィラキシーの機序、症状および治療を説明できる "E-4-3)-(6)"
6. 膠原病において認められる特異的自己抗体を挙げ、説明できる "E-4-1)"

キーワード：

自己免疫、自己抗体、抗核抗体、疾患特異的自己抗体、即時型反応、遅延型反応

参考書：

◆ 内科学(朝倉書店)

準備：

予習：リウマチ膠原病領域の過去の講義資料または教科書などで、知識の再確認をしておく(2時間)。

復習：講義スライドの再確認(30分)。

膠アレ2：RA、SLE、MCTD

日時：7月14日(火) 2時限

担当者：花岡 洋成(総セ リウマチ・膠原病内科)

内容：

この講義に出席することでRA、SLE、MCTDの臨床特徴を列挙できる

1. 関節リウマチ(RA)の疾患概念、診断、治療戦略を理解できる(E-4-3)-(2))
2. リウマトイド血管炎の疾患概念、診断、治療戦略を理解できる(E-4)
3. 抗リウマチ薬の種類とその作用機序、使用上の注意点について説明できる
4. 全身性エリテマトーデスの臨床症状、病態を理解し診断することができる。治療法が説明できる。(E-4-3)-(3))
5. 混合性結合組織病の臨床症状、診断、治療法が説明できる。(E-4-3)-(4))

キーワード：

関節リウマチ、抗リウマチ薬、ループス腎炎、中枢神経精神ループス、結合組織病関連肺高血圧症

参考書：

◆ 1. 内科学(朝倉書店)第11版(総編集；矢崎義雄)2017年：12-2 関節リウマチ及び類縁疾患(p. 1220～1225、1231～1239) 2. 内科学書 vol.2(中山書店)改訂第9版(総編集；南学正臣)2019年：関節リウマチと悪性関節リウマチ(p. 215～225)

準備：

予習：参考書の上記の所定ページをあらかじめ読んでおく(60分) 復習：参考書の所定のページと授業の資料(60分)

膠アレ3：SSc、PM/DM、シェーグレン症、IgG4関連疾患

日時：7月23日(木) 5時限

担当者：秋山 雄次(リウマチ膠原病科)

内容：

★PS-03-02 表1 免疫・アレルギー 全身性結合組織病 全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、Sjogren 症候群、その他 IgG4 関連疾患 小試験と捕捉講義によって各疾患を整理する。小試験の解答は配布する。

1. ★PS-03-02 全身性強皮症の臨床症状、病態を理解し診断することができる。治療法が説明できる。
2. ★PS-03-02 多発性筋炎/皮膚筋炎の臨床症状、病態を理解し診断することができる。治療法が説明できる。
3. ★PS-03-02 Sjogren 病の臨床症状、病態を理解し診断することができる。治療法が説明できる。
4. ★PS-03-02 IgG4 関連疾患の臨床症状、病態を理解し診断することができる。治療法が説明できる。

キーワード：

間質性肺炎、腎クリーゼ、皮膚硬化、悪性腫瘍、Raynaud 現象、抗セントロメア抗体、抗 RNA ポリメラーゼ III 抗体、抗 Scl-70 抗体、抗 ARS 抗体、抗 Jo-1 抗体、抗 Mi-2 抗体、抗 TIF1- γ 抗体、抗 MDA5 抗体、抗 SSA 抗体、抗 SSB 抗体、IgG4

教科書：

◆ 内科学（朝倉書店）第12版 総編集；矢崎義雄・小室一成

参考書：

◆ 臨床検査データブック 2025~2026（医学書院） 監修；黒田 清

予習：

4年生講義資料に目を通す（30分）

復習：

授業内容を朝倉内科学第12版で復習し深化させる（III-380~383、391~399、431~436）（60分）

膠アレ4：ベーチェット病、強直性脊椎炎、血管炎、PMR

日時：7月21日（火） 1時限

担当者：横田 和浩（リウマチ膠原病科）

内容：

1. E-4-3)-(5) ベーチェット病の症候、診断と治療を説明できる。
2. E-4-3)-(2) 強直性脊椎炎の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
3. E-4-3)-(5) 全身性血管炎を分類/列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
4. E-4-3)-(2) リウマチ性多発筋痛症の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

キーワード：

ベーチェット病、ぶどう膜炎、HLA-B51、脊椎関節炎、強直性脊椎炎、炎症性腰背部痛、HLA-B27、ANCA 関連血管炎、リウマチ性多発筋痛症

参考書：

◆ 内科学（朝倉書店）第12版 第Ⅲ巻 p.410-414（ベーチェット病）、第Ⅱ巻 p.373-376（強直性脊椎炎）、第Ⅲ巻 p.401-408（血管炎）、第Ⅱ巻 p.376-378（リウマチ性多発筋痛症）

準備：

講義で使用されたスライドハンドアウトおよび参考書を参照しながら、ベーチェット病、強直性脊椎炎（脊椎関節炎）、全身性血管炎、リウマチ性多発筋痛症について、病態生理・主な症候・診断の要点・治療の基本方針を、A4用紙 半ページ~1ページ程度に簡潔にまとめておくこと（目安時間：約15分）。